

1.21 第34回 被ばく学習会 見てきた30年後のチェルノブイリ

片山夏子さん（東京新聞記者）

七沢 潔さん（NHK 放送文化研究所 上級研究員）



爆発炎上して破壊されたチェルノブイリ4号炉
<http://goo.gl/D7GhSL>

チェルノブイリ原発事故で日本に飛んできたセシウム 137 は、ようやく半分に減っただけ。30年経っても、チェルノブイリ3国では毎年子どもの甲状腺検診が行われ、保養が国家事業として行われています。福島原発事故5年後の日本とは大変な違いです。

1月21日の被ばく学習会では、30年後のチェルノブイリを共に訪問された片山夏子さ

ん（東京新聞・「ふくしま作業員日誌」連載）に「ロシアの事故処理作業員たちの30年」について、七沢 潔さん（チェルノブイリ事故当時から原発報道に従事、NHK テレビ「（福島原発事故による）放射能汚染地図シリーズ」ディレクター）に「30年たっても終わらない原発事故」について、お話しいただきます。

第34回被ばく学習会 見てきた30年後の チェルノブイリ

講演：片山夏子（東京新聞記者）

七沢 潔（NHK 放送文化研究所）

1月21日(土) 午後1時開場
1時15分～5時15分

文京区・アカデミー茗台・学習室A
地下鉄丸の内線「茗荷谷」駅下車、「春日通り」
改札を出て右折、春日通りを右へ 徒歩8分、
茗台中学校と同じビル隣りの入口から7階へ

参加費：700円

申込先：anti-hibaku@ab.auone-net.jp

電話：090-3577-4844（温品；めくしな）

懇親会：学習会のあと茗荷谷駅前、3,000円程度。

申し込みの際、懇親会の出欠も付記してください。

